

- 会, 2003年12月6日, 東京都, Pain Research, 18, 189, 2003.
- 18) 田中 裕, 染矢源治, 村松芳幸, 真島一郎, 片桐敦子, 村上修一, 佐々木夏恵, 吉嶺文俊, 下条文武, 荒川正昭, 村松公美子, 櫻井浩治: 歯科において周術期管理に難渋した解離性障害患者の1例, 第8回日本心療内科学会学術大会, 2004年1月9 - 10日, 大分市, 第8回日本心療内科学会学術大会抄録集, 47, 2004.
- 19) 真島一郎, 山岸格史, 藤村健夫, 佐々木夏恵, 斎藤功, 中山秀章, 村上修一, 片桐敦子, 村松芳幸, 下条文武, 田中 裕: パニック障害における呼吸中枢機能についての検討, 第8回日本心療内科学会学術大会, 2004年1月9 - 10日, 大分市, 第8回日本心療内科学会学術大会抄録集, 58, 2004.
- 20) 弦巻 立: NPYはY1受容体を介して1アドレナリンレセプター刺激による収縮反応を増強する, 第77回日本薬理学会年会, 2004年3月8 - 10日, 大阪市, J. Pharmacol. Sci., 94, suppl.1, 221, 2004.

【研究会発表】

- 1) 瀬尾憲司, 染矢源治, 藤原直士: 三叉神経系における痛み反射の生後発達に関する研究, 第57回新潟麻酔懇話会, 第36回新潟ショックと蘇生・集中治療研究会, 2003年6月14日, 新潟市.
- 2) 岡部 香織, 石井多恵子, 前川孝治, 山崎由美子, 田中 裕, 瀬尾憲司, 染矢源治: 術中不穏を呈し対応に苦慮した静脈内鎮静法症例, 第52回新潟口腔外科麻酔科集談会, 2003年6月19日, 新潟市.
- 3) 弦巻 立: 交感神経コトランスミッター neuropeptide Y (NPY) の血管平滑筋収縮反応性, 新潟高血圧談話会, 2003年7月11日, 新潟市, 2003.
- 4) 前川孝治: 術後の不穏, 体動への対応に苦慮した1症例, 第53回新潟口腔外科麻酔科集談会, 2003年11月27日, 新潟市.
- 5) 瀬尾憲司: 三叉神経系における痛み反射の生後発達に関する研究, 第23回愛知医科大学痛み学講座セミナー, 2003年11月25日, 名古屋市.

【その他】

- 1) 田中 裕: 歯科心身症患者に対して歯科医はどう対応すべきか, 新潟大学歯学部同窓会新潟県支部2003年度第1回定期セミナー, 2003年5月17日, 新潟市.
- 2) 染矢源治, 瀬尾憲司, 田中 裕: 新潟市歯科医師会主催救急講習会, 2003年7月27日, 新潟市.
- 3) 染矢源治, 瀬尾憲司, 田中 裕, 山崎由美子, 石井

- 多恵子, 岡部 香織, 前川孝治, 照光 真, 倉田行伸: 松村歯科医院救急講習会, 2003年8月3日, 新潟市.
- 4) 瀬尾憲司: 救急薬品の使用法, 西蒲原郡歯科医師講習会, 2003年7月25日, 西蒲原郡.
- 5) 瀬尾憲司, 田中 裕: 緊急時の対処法として行わなければならないこと, 平成15年度三島郡学術講演会, 2003年10月25日, 寺泊町.
- 6) 田中 裕: 私の臨床 - 歯科領域における心身医学的アプローチについて -, 新潟市歯だより, 第157号, 10-12, 2003.

特殊歯科総合治療部

【論文】

- 1) Ohshima, H., Nakakura-Ohshima, K., Takeuchi, K., Hoshino, M., Takano, Y. and Maeda, T.: Pulpal regeneration after cavity preparation, with special reference to close spatio-relationships between odontoblasts and immunocompetent cells. Microsc. Res. Tech., 60: 483-490, 2003.
- 2) Kobaiashi, V.T., Mitomi, T., Taguchi, Y. and Noda, T.: Occlusal guidance for eruption disturbance of mandibular second premolar: a report of three cases. J. Clin. Pediatr. Dent., 27: 101-105, 2003.
- 3) Taguchi, Y., Yano, Y., Kobayashi, H. and Noda, T.: Retarded eruption of maxillary second premolars associated with late development of the germs. J. Clin. Pediatr. Dent., 27: 321-326, 2003.
- 4) Sano, T., Tomizawa, M., Ida-Yonemochi, H., Tanabe, Y. and Noda, T.: Congenital defect of maxillary primary central incisor associated with exposed pulp and gingiva: Case report. J. Clin. Pediatr. Dent., 28: 39-42, 2003.
- 5) Tamura, H., Nakakura-Ohshima, K., Maeda, T. and Ohshima, H.: Different distributions of immunocompetent cells in the dentogingival junction during root formation in rat molars. J. Periodontal Res., 38: 10-19, 2003.
- 6) Shimomura, J., Ishibashi, O., Ikegame, M., Yoshizawa, T., Ejiri, S., Noda, T., and Kawashima, H.: Tensile stress induces α -adaplin C production in mouse calvariae in an organ culture: Possible involvement of endocytosis in mechanical stress-stimulated osteoblast differentiation. J. Cell. Physiol., 195: 488-496, 2003.
- 7) Matsuyama, J., Sato, T., Hoshino, E., Noda, T. and Takahashi, N.: Fermentation of five sucrose isomers by human dental plaque bacteria. Caries

Res., 37 : 410-415, 2003.

- 8) Nakakura-Ohshima, K., Watanabe, J., Kenmotsu, S. and Ohshima, H. : Possible role of immunocompetent cells and the expression of heat shock protein-25 in the process of pulpal regeneration after tooth injury in rat molars. J. Electron Microscopy, 52 : 581-591, 2003.
- 9) Kinoshita, S., Tomizawa, M. and Noda, T. : Congenitally missing lower primary canine, anomalous lower primary first molar and impacted supernumerary premolar in one dental arch : Case report. Ped. Dent. J., 14 : 135-140, 2004.
- 10) 大竹千鶴, 高木正道, 田口 洋, 野田 忠 : 復元給食による咀嚼実験の一試行. 小児歯誌, 41 : 37-44, 2003.
- 11) 住吉智子, 田邊義浩, 佐野富子, 野田 忠 : 歯科治療時における不適応児とその母親の行動観察. 新潟歯学会誌, 33 : 23-29, 2003.
- 12) 佐野富子, 田邊義浩, 柳田響子, 野田 忠 : 定期的な歯科受診は歯科恐怖を和らげる. 新潟歯学会誌, 33 : 267-268, 2003.
- 13) 稲見佳大, 森田修一, 中川公貴, アルカムラ パシチャーレ, 寺田員人, 花田晃治 : 上下顎移動術による中顔面軟組織の三次元表面形状変化 非接触型レーザー三次元形状計測装置を用いて, 日本顎変形症学会雑誌 13(1) : 35-43, 2003.
- 14) 宮永美知代, 寺田員人, 島田和幸, 高橋 彬 : 現代成人顔面頭部の生体計測値とその相関係数 生体計測値からみた日本人顔面頭部の形態的特徴, 美術解剖学誌, 8(1) : 61-76, 2003.

【著書】

- 1) 野田 忠 : 「食べる・食べる」(山田好秋, 野田 忠編). ブックレット新潟大学22 続『食べる』 食べるの科学, 70頁, 新潟日報事業社, 新潟, 2003.
- 2) 寺田員人(分担執筆) : 「顔と健康」, 新潟大学大学院歯学総合研究科ブックレット新潟大学編集委員会編, ブックレット新潟大学25顔から学ぶ, 66-70, 新潟日報事業社, 新潟, 2004.

【商業誌】

- 1) 野田 忠 : 成育をサポートする歯科. 小児歯科臨床, 8(1) : 22-23, 2003.
- 2) 荒井良明, 河野正司 : デジタル顎運動測定装置 KaVo ARCUS digma 全運動軸を用いた顎運動の測定とフェイスボウやチェックバイトを用いない

半調節性咬合器の調節が可能. 日本歯科評論, 63(7) : 121-128, 2003.

- 3) 河野正司, 荒井良明 : 顎位の指標はどの様式を採用するか 中心咬合位 咬頭嵌合位 顎頭安定位 それぞれの特色と補綴学的意義. 別冊 the Quintessence Year book2003 現代の治療指針 全治療分野とカリオロジー, クインテッセンス出版株式会社, 東京, 346-347, 2003.

【研究成果報告書】

- 1) 野田 忠, 山田好秋, 真貝富夫, 田口 洋, 小林博昭 : 嚙下障害発生に関する中枢機構・神経支配・味覚の基礎的研究. 平成15年度科学研究費補助金研究成果報告書, 基盤研究(B)(2), 研究課題番号13470448, 2004年.
- 2) 松山順子, 富沢美恵子, 佐藤拓一, 高橋信博, 野田忠 : 小児の成長発育に伴う口腔細菌叢の変動に関する研究 16S rRNA genes PCR-RFLP法による解析. 平成15年度科学研究費補助金研究成果報告書, 基盤研究(C)(2), 研究課題番号14571944, 2004年.
- 3) 高橋信博, 真柳秀昭, 野田 忠, 畑 真二, 松山順子, 佐藤拓一 : 齧蝕予防戦略としての糖アルコール・カクテルの応用 より効果的で安全なブランク・コントロールのために. 平成15年度科学研究費補助金研究成果報告書, 基盤研究(B)(2), 研究課題番号14370687, 2004年.
- 4) 大島邦子, 大島勇人, 原田英光 : 移植・再植後の歯髄再生過程における組織幹細胞の局所と細胞動態. 平成15年度科学研究費補助金研究成果報告書, 基盤研究(C)(2), 研究課題番号15592159, 2004年.
- 5) 荒井良明 : 顎関節のあそびと顎関節内障との関係. 平成15年度日本学術振興会研究費補助金研究 若手研究B(新規), 課題番号15791121, 2004年.
- 6) 櫻井直樹(代表), 河野正司, 林 孝文, 寺田員人, 鈴木一郎, 小林 博, 星名秀行, 八木 稔 : 情報の暗号化を伴うネットワークを活用した顎関節症患者の遠隔診断支援システム構築, 平成15年度科学研究費補助金, 萌芽研究, 課題番号15659462, 研究実績報告書, 2004年.

【講演・シンポジウム】

- 1) 野田 忠 : 咬合誘導. ハルビン医科大学講演, ハルビン, 2003年11月11日, ハルビン医科大学講演会資料, 2003年.
- 2) 荒井良明 : 片側性遊離端欠損が咀嚼機能に及ぼす影響. 第110回日本補綴歯科学会学術大会シンポジウム, SDA(短縮歯列)のコンセプト その運用と

限界：その2：科学的・多角的データによる検討，
長野，2003年10月25日，補綴誌47（110回 特別
号）：38，2003．

【学会発表】

- 1) Shimomura, J., Amizuka, N., Seki, Y., Noda, T., and Maeda, T. : Promoted osteoblastic activity and bone remodeling in osteoprotegerin deficient mice. 1st Joint Meeting of the International Bone and Mineral Society and the Japanese Society for Bone and Mineral Research, Osaka, Japan, 2003. 6. 3-7.
- 2) Matsuyama, J., Sato, T., Hoshino, E., Noda T. and Takahashi, N. : Fermentation of five isomers of sucrose by dental plaque bacteria. 81th International Association for Dental Research, Goteborg, Sweden, 2003. 6. 28, J. Dent. Res., 82 (Special Issue B), B-360, 2003.
- 3) 梶井友佳, 真貝富夫, 高橋義弘, 福島伸一, 田口洋, 野田 忠, 山田好秋: 肥満ラットの味覚応答に対するレプチンの作用. 第80回日本生理学会大会, 福岡, 2003年3月25日, 第80回日本生理学会大会プログラム, 279頁, 2003年.
- 4) 下村淳子, 網塚憲生, 関 雪絵, 野田 忠, 前田健康: オステオプロテジェリン欠損マウスにおける骨芽細胞活性と骨改造現象について. 第108回日本解剖学会総会・学術大会, 福岡, 2003年4月1-3日, 解剖学雑誌, 78 (suppl), 191頁, 2003年.
- 5) 木下承子, 野田 忠, 河野芳朗, 竹内亀一, 前田健康: 特殊神経終末における11 β -hydroxysteroid dehydrogenaseIIとmineralocorticoid receptor の免疫組織化学的局在について. 平成15年度第36回新潟歯学会総会, 新潟, 2003年4月19日, 新潟歯学会誌, 33(1), 71頁, 2003年.
- 6) 田口 洋, 小林博昭, 富沢美恵子, 野田 忠: 新潟大学小児歯科診療室で処置した萌出障害について. 平成15年度第36回新潟歯学会総会, 新潟, 2003年4月19日, 新潟歯学会誌, 33(1), 72頁, 2003年.
- 7) 下村淳子, 田邊義浩, 田口 洋, 野田 忠: 乳歯列期前歯部反対咬合の新たな診断システムの提案. 第41回日本小児歯科学会大会および総会, 新潟, 2003年5月30日, 小児歯誌, 41(2), 386頁, 2003年.
- 8) 田口 洋, 小林博昭, 野田 忠: 上顎永久犬歯移転の10症例. 第41回日本小児歯科学会大会および総会, 新潟, 2003年5月30日, 小児歯誌, 41(2), 387頁, 2003年.
- 9) 野田 忠, 田口 洋, 高木正道: 新潟大学小児歯科外来において処置した萌出障害について. 第41回日本小児歯科学会大会および総会, 新潟, 2003年5月30日, 小児歯誌, 41(2), 388頁, 2003年.
- 10) 福島伸一, 野口真紀子, 野田 忠: 知的障害者の歯科診療に対する反応の変化について. 第41回日本小児歯科学会大会および総会, 新潟, 2003年5月30日, 小児歯誌, 41(2), 400頁, 2003年.
- 11) 下村淳子, 網塚憲生, 関 雪絵, 野田 忠, 前田健康: オステオプロテジェリン欠損マウスでは骨代謝回転の上昇と脂肪化が促進され、骨の脆弱化が生じる. 第21回日本骨代謝学会, 大阪, 2003年6月5日, 第21回日本骨代謝学会プログラム抄録集, 72頁, 2003年.
- 12) 大島邦子, 渡邊淳一, 監物新一, 大島勇人: ラット臼歯再植後の象牙芽細胞再生過程と歯髓抗原提示細胞の遊走について. 第45回歯科基礎医学会学術大会・総会, 盛岡, 2003年9月18-19日, 歯科基礎医学会雑誌, 45 (補), 89頁, 2003年.
- 13) 木下承子, 野田 忠, 河野芳朗, 竹内亀一, 前田健康: 特殊神経終末における11 β -hydroxysteroid dehydrogenaseII, mineralocorticoid receptorおよびHsp90の免疫組織化学的局在について. 45回歯科基礎医学会学術大会・総会, 盛岡, 2003年9月19日, 歯科基礎雑誌, 45(補), 138頁, 2003年.
- 14) 富沢美恵子, 野田 忠: 新潟大学歯学部小児歯科外来における再発1例を含む小児の歯牙腫40例についての臨床的観察. 第15回日本小児口腔外科学会総会, 広島, 2003年11月8日, 第15回日本小児口腔外科学会総会プログラム・抄録集, 42頁, 2003年.
- 15) 小林正治, 泉 直也, 本間克彦, 朝日藤寿一, 森田修一, 寺田員人, 大木葉孝宣, 齊藤 力: 口唇口蓋裂患者における上下顎移動術後の顎位の安定性について. 第27回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 2003年5月19-20日, 大阪, 日口蓋誌28(2): 149, 2003.
- 16) かづきれいこ, 寺田員人, 朝日藤寿一, 花田晃治, 小野和宏, 飯田明彦, 高木律男, 小林正治, 齊藤力, 長田文子: リハビリメイクの紹介と医療連携, 第27回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 2003年5月19-20日, 大阪, 日口蓋誌28(2): 197, 2003.
- 17) 中川公貴, 寺田員人, 稲見佳大, 森田修一, 花田晃治: 偏位を伴う顎変形症患者における顔面軟組織の非対称性, 第13回日本顎変形症学会総会, 2003年6月27-28日, 札幌, 日顎変形誌13(3): 223, 2003.
- 18) 寺田員人, 稲見佳大, 中川公貴, 山崎幸一, 花田晃治: 歯科矯正学における画像処理研究と臨床, 情報処理学会 コンピュータビジョンとイメージメディア研究会 No.139, 2003年7月3-4日, 京都, 情報処理学会 研究報告 2003巻66号: 133-140, 2003.
- 19) C. E. Gramaticescu, C. E., Terada, K., Ishii, I., Watanabe, N., Ono, K., Morita, S., and Hanada, K. :

Three dimensional evaluation of mid-facial development in unilateral cleft lip and palate, 平成15年度新潟歯学会第1回例会, 2003年7月12日, 新潟, 新潟歯学会誌33(2): 289, 2003.

- 20) 寺田員人, 山崎幸一, 花田晃治: 2次元平均顔画像は形態を表現しているか, 第10回美術解剖学会大会, 2003年7月19日, 東京, プログラム集, 8, 2003.
- 21) 寺田員人: 「成人における上顎側方拡大 Expansion screw と corticotomy を併用した側方拡大法」, 第31回日本臨床矯正歯科医会大会, 2003年9月15-16日, 名古屋, プログラム集, 28, 2003.
- 22) Carmen Elena Gramaticescu, C. E., Terada, K., Watanabe, N., Ono, K., Morita, S., Hanada, K. and Takagi, R.: Computer-Assisted 3D Diagnosis of Facial Asymmetry in Unilateral Cleft Lip and Palate, The 5th Asian-Pacific Cleft Lip and Palate Conference, Sep 29 - Oct. 1, 2003, Seoul, Korea, Program and Abstracts, p249.
- 23) 寺田員人, 花田晃治, 小林正治, 星 栄一: Crouzon症候群の1症例, 教育講演「顎変形症の診断と治療」 関連症例の展示, 第62回日本矯正歯科学会大会, 新潟, 2003.10.8-10, プログラム・抄録集: 80, 2003.

【その他】

- 1) 野田 忠: 食べるの科学. 平成15年度全学共通科目「食べるⅠ そのメカニズム」, 新潟, 2003年4月11日.
- 2) 野田 忠: おっぱいを飲む. 平成15年度全学共通科目「食べるⅠ そのメカニズム」, 新潟, 2003年4月18日.
- 3) 野田 忠, 田口 洋: 「食べる」まとめ. 平成15年度全学共通科目「食べるⅠ そのメカニズム」, 新潟, 2003年7月25日.
- 4) 野田 忠: 食べるの科学. 平成15年度全学共通科目「食べるⅡ 楽しく食べる」, 新潟, 2003年10月3日.
- 5) 大島邦子: 口腔の健康と「食べる」. 平成15年度全学共通科目「食べるⅡ 楽しく食べる」, 新潟, 2003年10月24日.
- 6) 野田 忠: 日本の小児歯科事情. 平成15年度全学共通科目「日本語・日本事情」, 新潟, 2003年11月19日.
- 7) 大島邦子: 知的障害児(者)の歯科治療, 平成15年度歯科臨床研修医セミナー, 新潟大学医歯学総合病院, 2003年7月9日.
- 8) 荒井良明: 咬合による力のコントロール, 平成15年度歯科臨床研修医セミナー, 新潟大学医歯学総合病院, 2003年10月8日.
- 9) 荒井良明: 顎関節症の基礎知識, 平成15年度歯科臨床研修医セミナー, 新潟大学医歯学総合病院, 2003年10月15日.
- 10) 寺田員人: 外科的矯正治療のチームアプローチについて, 平成15年度歯科臨床研修医セミナー, 新潟大学医歯学総合病院, 2004年1月21日.

歯科総合診療部

【論文】

- 1) Arwatchanakan, S., Uoshima, K., Takahashi, H. and Miura, H.: The effect of electrical potential on the penetration of metal ions through radicular dentin. *Journal of Medical and Dental Sciences*, 51(1): 53-58, 2004.
- 2) Okiji, T.: Modified usage of the Masseran kit for removing intracanal broken instruments. *J. Endod.*, 29: 466-467, 2003.
- 3) Yasuda, K., Sugita, N., Kobayashi, T., Yamamoto, K. and Yoshie, H.: Fc RIIB Gene Polymorphisms in Japanese Periodontitis Patients. *Genes. Immun.*, 4: 541-546, 2003.
- 4) van der Pol, W-L., Jansen, M.D., Sluiter, W.J., van de Sluis, B., Leppers-van de Straat, F.G.J., Kobayashi, T., Westendorp, R.G.J., Huizinga, T.W.J. and van de Winkel, J.G.J.: Evidence for non-random distribution of Fc receptor genotype combinations. *Immunogenetics*. 55: 240-246, 2003.
- 5) Yamamoto, K., Kobayashi, T., Grossi, S., Ho, A.W., Genco, R.J., Yoshie, H. and DeNardin, E.: Association of Fc receptor IIa genotype with chronic periodontitis in Caucasians. *J. Periodontol.*, in press. 2003.
- 6) Gonzales, J., Kobayashi, T., Michel, J., Mann, M., Yoshie, H. and Meyle, J.: Interleukin-4 gene polymorphisms in Japanese and Caucasian patients with aggressive periodontitis. *J. Clin. Periodontol.*, in press. 2003.
- 7) Kaneko, S., Kobayashi, T., Yamamoto, K., Jansen, M.D., van de Winkel, J.G.J. and Yoshie, H.: A novel polymorphism of Fc RI (CD89) associated with aggressive periodontitis. *Tissue Antigens*, in press. 2003.
- 8) Shimada, Y., Tai, H., Endo, M., Kobayashi, T., Akazawa, K., Yamazaki, K. and Yoshie, H.: Association of tumor necrosis factor receptor type 2 +587 gene polymorphism with severe chronic